

学園だより

Vol.99
2005.3

北見工業大学



特集

門 出 -卒業・修了おめでとう-2~13

○機械システム工学科... 2 ○電気電子工学科4 ○情報システム工学科..... 6
○化学システム工学科... 8 ○機能材料工学科.....10 ○土木開発工学科.....12

●平成16年度進路状況等 14

課外活動報告「ユニバーシアードにて8位入賞!」.....16

●私の学生時代⁵⁸.....18 ●研究室だより⁵⁹.....19 ●学内ニュース.....20
●学事日程21



一歩ずつ着実に

機械システム工学科長

尾崎 義治

皆さんは本日修了・卒業式を迎えられました。卒業したかどうかより、何を学んだかが重要であるという意見をときどき聞きますが、必要な単位を取得して修了・卒業することは、けじめをつけるという意味で非常にたいせつなことです。したがって、心から皆さんを祝福したいと思います。

さて、皆さんより年長であることから、社会に出てゆくための心構えについて、何かを述べるべきなのでしょう。しかし、日々判断に迷い、後悔してばかりの私には、それはきわめて困難なことです。したがって、ここでは私のいままでの経験と感想を述べるだけにします。

まず、社会人にとって所属組織からの評価は最大の関心事ですが、実際にくださる評価に疑問を感じることはよくあることです。そんなとき、まじめに努力するよりも要領よく立ち回ろうとする人と、評価に拘泥せずに淡々と職務に励む人を見てきましたが、何年かのちには、前者の人はあまり幸せになっていないように感じています。後者の人はそれなりに人望を集め、穏やかな日々を送られていると感じています。このこ

とから、「長い目でものごとを見て、職務にまじめに取り組むことが大切である」と思っています。

また、仕事をひと通りこなせるようになると、誰でも自分に自信をもち始めます。そして、転職によってよりよい待遇を得たいという誘惑にかられます。そんなときに実際に転職した人を見てみますと、いつかは華々しいのですが、数年以内に消息を聞かなくなるのが通常でした。このことから、「少々のことであっても、縁あって属した組織にはしばらくは腰を落ちつけるべきである」とも思っています。しばらくとは最低で3年でしょうか。

ところで、私のこのような感想は、すべて昔からいわれていることです。私も若いころは生意気でしたが、このことに気づいてからは、「年長者の意見には謙虚に耳を傾けるべきである」と考えるようになりました。

とりとめない話はもうよみましょう。「人生はまじめにやっていたら何とかなる」と信じて、お互いこつこつと仕事に取り組みましょう。立派な社会人なった皆さんと再会できる日を楽しみにしています。

後輩への就職アドバイス

機械システム工学専攻 2年 橘 佐知夫



みなさん進級おめでとうございます。

早いもので去年、私が就職活動を行ってからすでに1年が過ぎ、再び就職活動を行なう季節になってきました。もうすでに就職活動

を行なっている人も、まだ行なっていない人もいますが、良く悩んだ上で選んで欲しいと思います。

私の場合は、周囲の人より行動に移すのが遅かったこともあり、同期が就職活動を開始した時期でもどこの会社を受けるか決めることが出来ずに悩んでいるという状況でした。しかし、焦らずに十分考えることで、悩んでいた会社に対して、強く就職したいという気持ちが現れました。この気持ちが就職活動の最も重要なことだと思います。

身の周りには、すでに希望の就職先を決め受けた

めの行動をする人や、もうすでに1社目を受けた人もいるかもしれませんが、他人は他人と割り切って、焦らずじっくりと探してほしいと思います。

そして、もう一つ。自分の中で『この会社』という気持ちが昔から存在しているのならば、迷わず受けてみることをお勧めします。たとえ、それが難しい場合でもです。友人も、そのような強い意思を持っていたから受かったのだと思います。

私の中で就職というのは、今後長くお世話になる会社として考えていることもあり、人生に大きく影響を与えるものと考えています。

よく会社のことを知るのはもちろん、よく悩み、後悔しないように決めてほしいと思います。そして、妥協しない中で自分にあった会社を探し出してほしいと思います。



「栄冠は君に輝く」

機械システム工学科 4年 渡辺 俊介

楽しく読んで頂きたい。

2000年度最後のセンター試験でガッツポーズをしたくなるくらいの点数を取り、それでも北の大地に根付く北見工業大学の判定は厳しかった。司会その判定ソフトを覆すべく見事合格を勝ち取り、ガッツポーズをした。

入学式の後に、機械科は4年目での卒研着手者率が低いことを聞いた。また、物理学の授業で、2年目と3年目はやる気がなくなる人が多いと聞いた。これらのおどし文句をまじめに受け止め、4年という月日を過ごした。

その成果は成績を上げることに繋がった。大切なことは、「初心忘れるべからず」。アメリカ大リーグで大活躍している日本人野手も、そんな事を言っていた。

大学2年になって、専門的な科目というのが増えてきたとき、ある授業でこんな感じのセリフを頂きました。

「なぜ?と思え。」

世の中に起きる現象や何気なく使っている物に対し

て、なぜそうなるのかを考えること、この姿勢が複雑な事柄を簡単な事柄に変えてくれました。本当です。

卒業後進学される方へ。進学を決めた理由と、合格が決まった時の気持ち、これらを大切に、原点にすることで、自らを成長へと導くのではないかと思います。

卒業後、就職される方へ。言いたい事は上と同じ。また、青色ダイオードの発明で200億円の対価があるとされた件に刺激を受け、企業ですばらしい結果を残せたら、と思います。

夢や希望を与えたいと言いますが、言う人がいくら言っても聞く人次第なわけで。夢や希望が欲しい人には何かの目印になるでしょう。なので、何かを求めてここまで読んで頂いたなら、是非に関わらず何かを与えていたら、反面教師でも何でも筆者冥利に尽きます。



個性を大切に

機械システム工学科 3年 安東 弘晃



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

北見で過ごされた学生生活はいかがでしたでしょうか。それぞれがそれぞれの想いで入学され、学業・サークル・アルバイト・趣味等に打ち込んだ生活を

過ごされたかと思います。

私に限らず、多数の在校生が先輩方にお世話になったことと思います。様々な所で先輩・後輩との交流があり、様々な思い出があると思います。入学してから、先輩方が卒業する今まで色々助けていただきました。先輩方と別れるのは寂しいですが、先輩方とのつながりは一生の財産になると在校生は感じていると思います。

4月からまた新たな生活が始まります。就職する方、進学する方、期待もあれば不安もあることと思います。私は工業高校出身です。私の友達のほとんどは高校卒業後就職し社会人としてスタートをきりました。帰省の度友達に再会すれば、皆口をそろえて「学生はいいよな」と言います。私は社会の事などよく分からないペーペーですが、社会人になれば学生時代と違い厳しいものだと感じています。ですが、社会に出れば学生

時代には味わえない何かを味わえるのではないのでしょうか。私は個性というものを大切だと感じています。大学では皆同じフィールドで勉強していますが、社会では答えの無いものを相手にしていると思います。自分の答えを作るために個性(自分の信念等)というものは大事ではないでしょうか。つまり、自分だけの・・・を持つことが大切だと思います。この考えはあくまで私の「個性」なので、他の考えがあっても当然です。

私も近い将来就職し社会人になります。社会人になった時に学生時代の経験が生きてくると思います。先輩方や同級生、後輩との付き合いはその経験となり、バネになると思います。先輩方が卒業された春から、一層自分に磨きをかけ精進したいと思います。今度は、社会という大舞台で会いましょう!

個人的な事ですが、サイクリング部岩井さん、あなたの強靱な体力にはすごいものを感じました。何にでも単純に真っ直ぐな岩井さんは、…(以下省略)…



電気電子工学科

Erectrical and Erecronic Engineering



卒業生ならびに修了生の皆様へ

電気電子工学科長

細 矢 良 雄

この度、本学から社会へ羽ばたかれる皆さん、本当におめでとうございます。また、今まで育て下さったご家族の方々にも心からお祝いを申し上げたいと思います。昨年一年、就職担当として皆さんの就職活動のお手伝いをしてきて、就職の内定を頂いた時は、私も本当に嬉しい気持ちになりました。当然、皆さんは、私以上に嬉しかったことと思います。あの気持ちを忘れずに、社会人になっても頑張ってください。

実社会に出るとすぐ待ちかまえている仕事は「知識に裏付けられた創造」だと思います。具体的に言いますと「問題解決能力」が要求されるということです。大学院を出られた方は、幾分かは経験されていることですが、それでも要求される責任のレベルが違います。小学校から大学の学部時代までは試験に受かる勉強という事で、主に知識を身に付ける勉強をせざるを得なかったわけですが、これからは、一層の専門的な深い知識を身につけながら、それを実際に活用することになります。そのためには、自分の頭で必死に考えることが必要です。今までよりも大変な面はありますが、一方自分の力で問題を解決した喜びは、単なる練習問題を解いた喜びとは比較にならないほど大きなものです。我々は工学の分野に生きており

ますので、皆さんが解決した問題は、即座に社会の多くの方に喜んで頂ける内容になるはずですよ。

社会で実際に起きている問題を解決するわけですから、いつも成功するわけではなく、失敗も多く経験することになると思います。この際、気を付けて頂きたいことは、「もし失敗した場合は、自分で抱え込まずにすぐ報告」することです。成功したことの報告はすぐできますが、失敗を報告することは非常に勇気を必要とします。しかしながら、すぐに報告し上司や同僚の力を借りますと、いろいろなアイデアが出てきて意外と簡単に解決することが多いものです。

最後に、社会人になりましたら「余暇を大切に」して下さい。人生は、直接の仕事だけでは決まらないような気がします。私の知人でも、専門の分野で立派な業績を上げ、研究所長などの要職に付かれながらも、「紙飛行機の設計」、「珍しい蝶類の撮影」、「SFの体系的研究」などで、日本の第一人者になられた方々が多数おります。そこまできなくとも、健康の増進や一生の友人知己を作る事も、余暇にぜひ行うべきことです。皆様には、お仕事で大いに頑張りながらも、豊かな人生を送られるよう期待いたしております。

「4年間を振り返って」

電気電子工学科 4年 中 村 哲 也



私は北海道出身ですが、北見工業大学に入学するまで、オホーツク海側の街に来るのが初めてで、この地方の冬の寒さにおいては、水落としの不注意による水道管の破裂や度重なる水道管の凍結そして大雪といった、北海道の内陸地特有の自然環境に大変苦労し、北海道の街の中で、こんなにも気温の変化が激しく、自然によって生活環境が変わるんだなあ実感しました。

勉強の面においては、1年～3年の間は、単位

を取ることに必死で、授業で出された課題や学生実験などを友達と情報交換しながら助け合い、4年の時には、卒業研究の面で、実験などがうまくいかない時などに、先生や先輩方に迷惑をかけながらも、自分達にてほどこきをして下さって、本当に感謝しています。

この4年間を振り返ると、長いようであつという間に月日が経過していきました。この間に経験し学んだことを、次のステップに生かせるよう頑張っていきたいです。

「就職アドバイス」

電気電子工学専攻 2年 島 義和



私は学校推薦で就職活動を行いました。

私が就職活動を終えて思ったことは自分がどの会社を受けるのかを早期に決める事が大変重要ということです。

学部3年の2月、修士1年の2月頃に少なくとも1社は決めておくと思います。行きたい会社を決めない限り企業研究や業界研究を行う事ができず、先へは進めません。

企業研究及び業界研究は学科の就職資料室やインターネットを参考にしますが、特に学科の就職資料室には、過去に先輩方が実際に筆記試験や面接でどんな問題や質問を受けたのかなどが書いてあり、就職活動においてとても心強いものです。

資料に書いてある筆記試験問題の傾向をチェックして、同じような問題が多くある問題集を最低1冊はやっておくと思います。また、面接

で受けた質問も多くの場合同じような質問をされることが多いようなので、面接前に最低限この資料に書かれている質問には答えることができるようにしておくと思います。

面接はとにかく緊張するものですが、私は「緊張」→「集中」へと変えるように努力して面接を受けました。

自分が本当に行きたいと思う会社を見つけることができれば、就職活動にも力が入ると思います。早期に自分の納得のいく会社を決める事が大切だと思います。私はどうしても入りたい会社が決まっていたため、企業研究や業界研究に時間を多く使いました。その努力が実って一社目で内定を頂くことができました。

就職活動は、時間、お金、体力、精神力を必要とする人生の大イベントです。苦しく、辛いこともあります。自らの最善を出して頑張ってください。心より、皆様のご健闘を期待しております。

贈る言葉

電気電子工学科 3年 貴志 壽之



卒業・修了本当におめでとうございます。

先輩方の中には北見に来ての4年又は6年間という時間は充実し、実りのある生活であったと感じている人も多いのではないのでしょうか。

実際、私も大学に入学してから同好会を作るなど、高校の三年間よりも充実していると感じております。

大学を卒業・修了されて、これからは社会人として責任ある立場に立たれることと思いますが、学生生活の中で学んだことを糧に新たな第一歩を踏み出して下さい。

私は先輩とのつながりの無い同好会に入っているため先輩と接する機会は少なかったため、先輩方に関して思い出されるのは親睦会や大学祭でのことです。先輩の優しい対応、実行委員として大学祭の準備・運営で奔走されている姿を見かけたり、それぞれ特徴のある模擬店での客寄せ、軽音

楽部のオリジナリティー溢れるすばらしい音楽を聴いたりして、先輩方は、計画力、実行力、独創性に富んだ優しい方ばかりだと感じました。先輩方はこれから経済状況の思わしくないこの時代に社会に出てゆくわけですが、不安もあり、最初は学生時代とのギャップや慣れない仕事で挫折し、落ち込むこともあると思います。

しかし、先輩方の実力を十分に発揮すれば様々な困難を乗り越えられると思います。また、日頃の生活の中で趣味などの楽しみを見つけ充実した楽しい日々を過ごしてほしいと思います。

先輩方のご健闘、ご活躍を心より期待しております。





卒業おめでとう

情報システム工学科長

鈴木 正 清

卒業ならびに修了おめでとうございます。最近、多くの企業が即戦力となる人材を求める傾向にあります。ここで言う即戦力とは、各企業の各部署にすぐに配属して、目覚しい成果をどんどん出す人材が欲しいという意味ではありません。むしろ、十分な基礎学力／基礎知識を持っていること、つまり、一から再教育しなくても、仕事に就ける人材を意味しています。さらに、欲を言えば、それらの基礎の上に立って、応用できることです。しかし、再度基礎固めのための研修を実施する企業は、まだまだ多くあります。

企業で研修を担当される方から、「研修に対して受動的で、やらされているという意識で研修に参加する社員がいる」という声を聞きます。これは、取り組む姿勢の問題です。重要な当事者意識が欠如しているのです。

20世紀の哲学者、サルトルは「人間は自由の刑に処せられている」と述べました。つまり、人間の前には、無数の選択肢が広がっており、人はそれを自ら選択せねばならず、また選択したことに関して、自ら責任を負わねばならない。これはまさに「自由の刑」であると述べています。当事者意識の欠如と

は、自ら選択したものに対して、自分が選択したことに気が付かないという最悪の状況で発生します。

では、より良い選択とはなんだろうか？それは、目標に適った選択です。現在行っていることと、目標がまったく別な方向を向いているならば、当然、当事者意識は欠如し、何に应用できるだろうかなどと、発展的な考えを巡らす気にさえなりません。しかし、最悪なのは目標さえないことです。

明確な目標がないということには、大きなリスクがあるにもかかわらず、それを感じる人は必ずしも多くはないようです。日々与えられた仕事や課題をこなすことに集中しているせいかもしれないし、そもそもそのようなことにリスクがあること自体考えたこともないのかもしれませんが。

選択の余地を多く残して生きる人と、ひとつのことに絞って生きる人ではどちらのほうが、打ち込んだことに卓越できるだろうか？それは後者です。一つのことを極められない人や卓越できない人の弱点は、優柔不断とも言える「選択の余地」の多さにあります。何でもできると思っていたら、何にもできずに終わっていたということになってはいけません。

「大学生活を振り返って」

情報システム工学科 4年 武田 隼



非常に短く人生の中で一番濃い時間。それが私の学生生活の感想である。在学中はそれまでの十数年間には無かった経験を色々とさせて貰った。インターンシップ、サークル活動、大学でのアルバイト、友達や技官、教授の方々との宴会等々と非常に刺激かつ充実した出来事だった。

その中でもインターンシップ先の人が語ってくれた社会人としての心構えや就職のアドバイス同じサークルの先輩、後輩と常に新しい情報や知識を交換、共有出来たということは今後の私の人生の糧となって行くだらう。

しかし他の学生を見ていて、非常に残念なのは私は仕方が無くここへ来た、こんな大学なんてとはじめから思っていて、ここで何しても所詮は無駄と誤ってしまっている人が居るとのことだ。目的を持

って学生生活を送り、そのために必要な情報を常に拾っていれば、そんな事は全く無い。報われないと卑下するより出来る事をすべきだ。

と生意気な事を書いたがようは素晴らしい大学生時代を送れたと思うのは自分自身であって、本人の心の持ちようによって180度感じ方が変わってしまうということである。常にポジティブに思考するという気構えは非常に大切な事だと思う。

「学ぶ」という事は素晴らしい事それはいつでもどこに居ても出来る。しかしこの大学の素晴らしい人々と北見の豊かな自然に魅せられた私は進学してもう2年程この地に留まり、色々な事に挑戦し、さらに自分自身を成長させて行くのである。最後に社会へ出る卒業生の皆さんは卒業後も高い志を持って仕事に励んで下さい。そして大学院に進学した皆さん、これからもよろしく。

化学システム工学科

Applied and Environmental Chemistry



卒業によせて

化学システム工学科学科長

吉田 孝

4年生、院生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから社会に出てそれぞれの道を歩まれる皆さんが頼もしく、また、まぶしく見えます。この1年間、学科長および就職委員として皆さんと接して来た感想を書かせて頂いて私から皆さんへのはなむけとさせて頂ければと思います。

私は民間企業に就職した経験がなく、幸運にも大学院修了と同時に大学に就職したので、就職活動の経験がありません。それが、今年度初めて専攻主任・学科長、就職委員という大役をまとめて引き受けることになり、特に就職委員という役目を考えると、昨年の今ころはたいへん不安な気持ちでいました。しかし、同僚の先生方や学生の皆さんにその都度助けられて1年が過ぎました。皆さんに対して責任が果たせたのかと反省することしばしばでした。自分自身の就職活動の経験はない代わりに、先輩や後輩、大学に勤めた後は多くの学生の就職活動を見せて頂くことも出来ました。また、学生が経験したことや会社での話の内容を聞くこともできました。従って、本年度皆さんからいろいろ相談されましたが、その時々で私のこれまで経験した似ている事例を思い出して参考にすると同時に、今年度何十社という数の会社の人事担当の方にお会いした時の話を勘案して、私なりに修正を加え皆さんとお話して来ました。それでも皆さんの希望は種々多様で少し前の学生とはかなり変わったと感じざるを得ませんでした。指導教官とうまくコミュニケーションが取れているのかと思ったことも1度や2度ではありませんでした。しかし、これらのことがいいのか悪いのかを判断することは難しく判断しないようにしていました。

昔、私が4年生になって研究室に配属になったとき、指導

教官の先生に言われた言葉を今年よく思い出していました。4年生の時はまだそれほど忙しくはなかったので、ときどき先生と一緒に電車で帰っていました。先生との会話は実験の話が中心でしたが、コミュニケーションは取れていたように思います。先生はドイツ語が得意でよく文献を訳してもらいましたが、あるとき「Etwus neuesという言葉を知っているか」と、聞かれたことがありました。「少しでも新しいことをやりなさい。研究はほんの少しいから新しいことが重要です」という意味だと教えられました。私がカナダに留学したとき、同じ研究室のヨーロッパから留学していた同僚にこの言葉を知っているかと尋ねたことがあります。そしたら彼はもちろん知っている。英語では「Something New」というと教えてくれました。今でもこの言葉は私の研究のスタンスになっています。私の経験から今までにない、ものすごく画期的なことをいきなり見出すことは不可能です。やはりほんの少しいから新しいことの積み上げが新しい分野を切り開いていけると考えています。

就職はある程度運に左右されてしまいますが、次ぎを待たないで決めるときに決める決断力も必要かとも思いました。しかし、決めてよかった場合と決めないでよかった場合の両方があったので、現実には難しいと常々感じました。大学生活最後の1年間はそれまでの大学生活とは大きく異なっています。この1年間の生活は決して忘れることがないと思います。私に取っても皆さんと直接接することが出来て貴重な経験をさせて頂きました。北見工業大学での生活が皆さんの人生に役に立つことを期待して贈る言葉とさせて頂きます。

卒業によせて

化学システム工学科 4年 桑澤 理恵子



思い起こせば4年前、これから始まる大学生活に期待と不安に胸を膨らませこの北見工業大学に入学しました。北海道に憧れこの地に来ましたが、思った以上に寒さは厳しく、雪量も想像以上でした。この広々とした景色の中、4年間の大学生活で得たものは本当に多くて、言葉では上手く表現することの出来ないほど大切な時間を過ごすことが出来ました。長いようで短かった4年間を振り返ると、辛くて、挫けそうになる事もありましたが、悩んだ時に共に考えてくれるかけがえのない友達もたくさん作る事ができ、今は不思議と楽しいことしか思い浮かびません。

3月の卒業式で4年間お世話になったこの大学を卒業し、4月から社会人としての生活がはじまります。道外に就職を希望した私は移動に思った以上の時間とお金がかかってしま

いましたが、出来る限りの情報を集め、受けたいと思った企業には赴くことができ、全力で悔いのない就職活動を行うことが出来ました。協力して下さった両親や先生方には感謝の念が絶えません。いま就職活動を始めている方、またこれから始めようという方は、情報を収集し、常に情勢を読み取り、計画をしっかり練って就職活動に立ち向かってください。重要なのは自分を見つめ直すことと、情熱です。やる気は試験や面接官に一番の効果となります。皆様が後悔のない就職活動、そして就職が出来ることを願ってやみません。

最後になりましたが、4年間指導をして下さった先生方ならびに大学関係者の方々、また私に関わっていただいた方々に感謝すると共に、仕送りを続けてくれた母には本当にお世話になりました。ありがとうございました。これからも北見工業大学全体がますます発展していく事を心よりお祈り申し上げます。

「後悔、先に…」

化学システム工学専攻 M1 高澤直弘



晴れて本学を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。

かくいう私も1年前に卒業しましたが、一度留年して大学院に進学したのであまり実感はありませんでした。しかし今年、皆さんを送り出す立場になり、その意味を深く感じています。

さて、皆さんが北見工大で過ごした4年ないし6年間は、いかがだったでしょうか？多くの仲間と出会い、楽しいことや嬉しいこともたくさんあったでしょう。しかし、時には惨めさを嘔みしめたり、激しい後悔の念に襲われた事もあったかも知れません。「後悔、先に立たず」という言葉があります。知ってのとおり「事が終わってから悔やんでも、取り返しがつかない。」という意味ですが、見方を少し変えてポジティブに解釈しましょう。後悔するばかりではどうしようもありませんが、その悔しさから何かを学び取ればよいのです。きっと次の機会には、その事が生きてくるでしょう。皆さんの中には大学院に進学する方はもちろん、企業などに就職されて社会に出る方も多いと思いますが、いずれにせよ、要求され

るレベルは今よりも高くなっていきます。もちろん失敗もするでしょう。どうぞその時は「先にたつ後悔」をして自分の糧として下さい。また、自分では解決できない問題にぶつかる事もあるでしょう。その時は、かつての恩師や様々な分野で活躍する同級生、先輩たちを訪ねてください。皆、以前よりたくましくなった貴方を快く迎えてくれるはずです。「友達1人＝1億円」と誰かが言っていました。人との繋がりはそれほどの価値があります。社会に出てからも、人との「出会い」を大切にしてください。それらは貴方の最も価値のある財産となり、時として大きなビジネスチャンスに繋がることさえあるでしょう。

最後に…

この道を行けばどうなるものか。
危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし。

踏み出せばその一足がみちとなり、
その一足が道となる。
迷わず行けよ、行けばわかるさ。

修了にあたって

化学システム工学専攻 2年 勝田剛弘



私は、北見工業大学で7年間通じて来ました。私は地元北見出身ということもあり、実家から大学に通っていました。

3年前から研究室に配属することが決まり、私は有機化学系の研究がやりたかったので、生物有機化学研究室に決めました。実験を通じて、研究のおもしろさを感じ、もっと化学について勉強したい、そして自分の研究についてもう少し追求していきたいと思ったことともう少し自分の将来について考える時間が欲しいという思いから、大学院に進学することを決めました。大学院に進学してからは、M1の時は毎日午前中は講義、午後は実験というような日々を過ごしていきました。少しずつ実験を積み重ねてきた努力から、大学院に進学して1年経つころには学会で自分の研究について発表できるぐらいまでになりました。

学会には、計4回行かせてもらいました。結構色々な所に行ったし、観光も出来たので学会に行くのは毎回楽しみでした。また学会では同じような分野の研究をやっている人達の意見というのをすごく貴重なものであり、

学会で発表したということは自分にとっての自信にも繋がりました。もし、大学院に進学することが決まっているもしくは考えている人は、学会で発表できるようになるまで研究に励んでください。きっと、自分にとって大きな自信になるはずです。

研究室では、良い仲間にも恵まれたと思います。時には厳しく、時には励まし合い、時には一緒に笑った研究室の仲間のおかげで私は3年間研究室でがんばれたと思うし、私自身非常に心から感謝しています。

4月からは生まれた時から育った北見、北海道を離れ、名古屋の方へ就職します。初めての一人暮らし、そして社会人としての生活が待っています。今は、期待もあり、不安もありという思いです。しかし、研究室で過ごした3年間で少しは自分自身成長できたと思います。ここでこの経験を生かして、これからの人生を過ごしていけたらと思います。



機能材料工学科

Materials Science



今こそ出発点

機能材料工学科長

松田 剛

6年間または4年間の本学での学生生活が終わって皆さんはどんな感想でしょうか？自分のことを振り返ってみると、やっと学校・大学から解放されるという安堵感しかなかったように思います。皆さんも同じではないでしょうか。確かに、4月から会社に入る人にとっては学校・大学でのカリキュラムで規定された受動的な勉強（知的活動）は終わりになります。しかし、実力・実績を重視している現在の競争社会を生き抜いていくためには会社に入ってから勉強を継続する必要があります。この勉強は大学までと同様に投資的ですが、能動的な知的活動になります。

学生では「できません」「分りません」「教えてくれませんでした」が通用しました。これは教育では結果だけでなく、プロセスも評価項目の一つだからです。どのようなプロセスを選択したか、あるいはどのように改善したかで結果の良し悪しがほとんど決まるためプロセスの重要性は社会に出ても変わりません。しかし、社会での評価は結果です。組織の中で「できません」「分りません」といえば、仕事が他の人に行くだけで終わります。ですから、「分らないこと」「できないこと」を自ら分るように、できるようにすることが重要です。また、現在のよう目まぐるしく変化する社会では知識の有効期限は短くなり、知識を常にバージョンアップし、かつ新たな知識を習得していく必要があります。

社会人では時間的な制約が大きいので、全ての事

にこのように対応していたのでは身が持ちません。このため、「不必要なところでは手を抜く」ということが重要になります。これは「さぼる」という事ではなく、全体像を捉えて、crucialな事とtrivialな事を区別して、crucialな点に力を集中させるために手抜きをするということです。あれもこれもと始めても、結局全てが中途半端で終わり、始める前よりも悪くなってしまいます。また、細部にこだわって先に進めません。全体を捉えていれば細部がわかるようになることもあるのです。

皆さんは修士論文研究や卒業論文研究で、分らない問題に取り組み解決法や対処法をいろいろと考えたはずですが。この知的活動こそが機能材料での教育の核心です。人によっては機能材料で習得した個々の知識が実社会であまり役に立たない、あるいは一生使わないこともあるでしょう。しかし、修論や卒論で経験した知的活動のパターンはいろいろな場面で応用でき、またこの6年間または4年間で皆さんに応用するだけの素養が備わったと確信しています。

能動的な知的活動を継続されて、実社会で大きく成長されることをお祈りします。

自由も生命も、日々努力する者にのみ仕える。
ゲート「ファウスト」より



卒業を迎えて

機能材料工学科 4年 成田 健一



私が北見工業大学に入学してから早いことで4年の年月が経とうとしています。あらためて振り返ってみると、入学した頃がつい最近のように感じられます。はじめは新しい場所での一人暮らしや大学生活などの環境変化に追いついていくのが精一杯という感じでした。そんな中、一番心強かったのはやはり友人の存在あり、この存在があったからこそ大学生活が非常に充実したものになったような気がします。

4年生になって研究室に配属されると、これまでとは全く違う環境であったためか多少ながら戸惑いが

ありました。研究や実験などほとんど何もわからず、先生並びに先輩方には大変お世話になりました。また、こうしたことを通じて研究に対する奥深さ、難しさ、そして面白さなどさまざまなことを学ぶことができ、自分にとって大きな刺激になりました。

私は春からは他大学の大学院に進学することになりました。新しい生活には大きな期待と不安でいっぱいですが、北見における4年間の生活で学んださまざまな経験を生かして頑張っていこうと思います。

最後になりますが、お世話になった皆様にこの場を借りて深くお礼させていただきます。本当にありがとうございました。

就職アドバイス

機能材料工学専攻 2年 河原 茂 史



私は就職活動というものを甘く見ていました。本格的に活動を始めたのは修士課程2年の3月からだったのです。その結果、志望度の高い企業での選考が締め切られているという事態が発生し、いき

なりやる気を削がれる事になりました。しかし、悩んでいる余裕などなく、孤独な戦いを続けるほかに道はありませんでした。

私は首都圏での就職を希望していた為、どの企業の選考を受けるにしても交通費等がかさんでしまうのが辛いところでした。首尾よく選考が進んでも、不景気を反映してか都合よく交通費を支給して下さる企業は少なかったです。その為、毎回命懸けで選考に臨んでいました。そんな中、友人達が次々に内定していく様子を見ると流石にプレッシャーを感じてしまい、一日

思い悩んでしまった事もあります。ですが、結果的には夏場に内定をもらう事が出来ました。そしてしばらくしてからその企業への入社を決め、私の就職活動は終了となりました。ですから、こんな私にアドバイスが出来るのかと問われると自信がないのですが、まず行ってほしいのは自己適正分析です。自分の日頃の人付き合いや好きな分野、得意な分野。多角的に自らの事を列挙していけば自分に向いているのは何なのか、おぼろげでもイメージが湧いてくるのではないのでしょうか。

また、就職活動では「弱気」と「油断」、これらの感情は禁物です。社会に出るというのはもう自己責任の領域ですし、自分自身をどの方向へでも進める事が出来るという事でもあります。今就職活動をしている人は最後の最後まで走り続けて悔いのない結果を手に出出来るよう頑張ってください。

在学生から贈る言葉

機能材料工学科 3年 堀内 美里



卒業生の皆様、御卒業おめでとうございます。

私達在学生にとって、先輩方ではなくてはならない存在でした。大学で、サークルで、遊びで、先輩方がいなくてはとても楽しい大学生活

生活にはならなかったでしょう。特に「大学」という新しい環境の中、勉強方法どころか、レポートの書き方からわからず困っていた私が、無事に単位を取れたのは先輩方のおかげだと思います。短い間でしたが、本当にお世話になりました。

ところで、長い長い学生生活の最後である北見での大学生活はいかがだったでしょうか。

楽しいことも、辛いことも、高校まででは経験できなかった様々なことがあったと思います。今、卒業を迎えられる先輩方。振り返れば、きっととても短く感じられると思います。

私の3年間で振り返れば大変長く感じられ、自分が4年生になることが、不思議でなりません。そして、4年生になることへ、不安と希望で一杯です。これから、社会人として旅立たれて行く先輩方の、不安と希望は更にでしょう。今までとは比べものにならない長い人生が先輩方を社会人として待っています。困難に

突き当たることもあるでしょうし、決して打ち破ることのできない壁があるかもしれません。けれども、御自分の人生であることを自覚し、常に前を向いて歩かれることを願っております。

最後に改めまして、御卒業おめでとうございます。皆様の前途に、幸多きことを。



土木開発工学科

Civil Engineering



人間として技術者として悔いのない人生を

土木開発工学科長

海老江 邦 雄

土木開発工学を勉強して学部を卒業あるいは大学院を修了する皆さん、大変おめでとう御座います。努力を積み重ねて今日の栄冠を手にした皆さんに、心からお慶びを申し上げます。

北国北見の春はまだまだ先のことですが、皆さんがたは、既に春を飛び越して北見の夏のように熱い気持ちで、また大変晴れがましい気持ち一杯で、今日の慶びを迎えていることでしょうか。老婆心ながら、ご両親を始め、これまでいろいろお世話になった周りの方々に感謝を忘れてはなりません。また、皆さんは、今、人生の重要な変換点に立っているのですから、これから始まる土木技術者としての人生をいかに進み、いかに実りあるものにするかについて、冷静に、そしてとことん考えてから、社会への第一歩を踏み出して貰いたいものと思います。

私が大学を卒業した41年前は、敗戦に伴う混乱期を上手く乗り越えた我が国が、各種の工業を活性化させ、世界中をあっと驚かせるほどの経済成長を遂げつつある時代でした。土木開発工学に関わる社会基盤の整備についても、社会が騒然となるほど積極的に進められていた時期でしたから、今と違って、役所も会社もこぞって土木系の技術者を必死になって求めていたように思います。不況不況の言葉が氾濫する中で大学生活を送っていた皆さんにとっては、まったく羨ましい限りと思うことでしょうか。そんな時代でしたから、多くの技術者は、エコノミックアニマルとか働き蜂とか言われながらも、毎日毎日を忙しく骨身を削って仕事をしてきたのです。し

かしながら、そのような努力が、今日あるような上・下水道を始めとする基本的な社会基盤の整備に繋がったのですから、いまでは大変誇らしく思っています。

皆さん方が踏み出す社会には、地球規模での人口問題、食糧問題、エネルギー問題、環境問題など、大変解決が難しい問題が山積しております。しかしながら、このような問題は、いつの時代にも手を変え品を変えて登場してくる問題なのですから、将来を悲観してはなりません。しばしば、老人は過去を語り、若者は未来の夢を語り未来を作るものと言われます。皆さん方は、多くの先輩と同様に明るい未来を信じて、土木開発工学科で身につけた技術や知識を基礎に技術のレベルアップを目指して努力して下さい。そうすれば、いつの日にか、皆さんの前に洋々たる活躍の場が拓けると同時に、豊かな人生が皆さんを待っているに違いありません。

最後に、皆さんの究極の目的は、いつの日にか自分を振り返ったとき、人間として技術者として悔いかなかったと思える人生にすることです。そのためには、まず健康に気をつけること、そして何事にも果敢に突き進んで行くファイトを持つことが大切です。皆さんが学んだ大学は北見工業大学であり、北見の地での思い出を忘れることはないでしょう。



卒業を迎えて

土木開発工学科 4年 安藤 直 哉



北見工業大学に入学してから卒業まで、長いようで短いようなあっという間の四年間でした。サークル活動やバイト、友達との飲み会など勉学外でも学生時代にしかできない思い出を多く作ることができ、充実した毎日を送ることができました。

一年生から三年生までは、講義中心の学生生活でした。仲間と集まり、レポートやテスト前の勉強会をしたり、休みを利用してキャンプに行ったりといろいろ経験しました。四年生は、研究室に配属になり、学生生活の環境が一変しましたが、先生や技術員、先輩方にご指導いただき、有意義な一年を過ごすことができました。

この大学生活の中で、私を成長させてくれたのは、多くの人との出会いであったと思います。大学の友達や、

大学という枠を超えたサークルの先輩後輩やバイト仲間など、多くの人と出会うことにより、色々なことを学んだと思います。例えば、サークルを通してボランティア活動やスキーの大会の手伝いなどを経験したことにより、地域の人々との交流の大切さを知りました。このことは、社会に出てから、必ず役立つ経験だったと思います。

私は、大学院に進学し、更なる専門知識を身に付け、院でしか経験できないことを多く経験したいと思います。

最後に、土木開発工学科の先生方をはじめ、大学関係者の方々には大変お世話になりました。この場をお借り致しまして深く御礼を申し上げます。



大学時代

土木開発工学専攻 2年 水 森 豊



月日が経つのは早いもので、私が北見に来てから早6年が経とうとしております。初めて北見の冬を体験した時のあまりの寒さによる驚きなど、たくさんの思い出を作ったこの地を離れることが寂しくも感じる今日この頃です。

今になってこの6年を振り返ってみると、研究室に入ってから3年が特に色濃く思い出されます。それ以前の3年間は自堕落な生活を送っていたため、研究室配属当初は本当に苦労しました。朝から晩どころか深夜まで研究に明け暮れていることが日常茶飯事で、心身ともに疲れきっている時期もありました。しかしながら、研究室の方々からの叱咤激励、期待通りの成果を挙げることができた時の喜び、思いもしない結果が出た時の苦しさなど、いろいろ経験していくうちに、充実した日々になりました。これらの経験は、今後の私にとってかけがえのない財産となると思います。

また、財産といえば、この大学で出会ったよき友人たちです。彼らと行ったキャンプ、空き時間に行なったサ

ッカーなど、非常に楽しい時間を過ごせたことをうれしく、また、懐かしく思います。私は春から社会人になりますが、年末年始や長期休暇のときに拘らず暇を見つけては、そんな仲間たちと酒を飲み交わしたいです。

在校生の皆さんも、学業はもちろんですが、限られた北見での学生生活をぜひ楽しんでいただき、生涯忘れることのないようにしてください。

最後になりますが、私を指導してくださいました諸先生方、及びお世話になった方々にこの場を借りて深くお礼させていただきます。本当にありがとうございました。



卒業されるみなさまへ

土木開発工学科 3年 小 林 潤



卒業・修了を迎えられた先輩の皆さん、本当におめでとうございます。大学を卒業するにあたり、不安もあることと思います。皆様方にとって大学生活はどうだったでしょうか。

大学に入学したときに思い描いていた大学生活は十分に満足できましたか。4年間あるいは6年間は長いようで、過ぎ去ってしまうと、あっという間なのだと思います。自分も来年には卒業する身ですが、今日までの3年間は、とても短く感じています。

学生生活の中では、進級や卒業という共通の目標がありました。これから就職して社会人としての生活が始まると、それぞれの目標が必要になってくると思います。また、慣れない仕事のため、様々な困難に出遭うでしょう。そんな時には、気晴らしとして夏休みなどに、是非大学に遊びに来てください。我がサークルでも、毎年夏には、卒業された先輩方が帰ってこられて、私たち後輩と談笑したり、サークルにおける貴重なアドバイスもいただいております。我々後輩も楽しみにしていますし、先輩方にもきっと日頃のストレスを発散できるよい機会になると思います。

先輩方にはサークル以外にも、インターンシップなど

で、大変お世話になりました。教えていただいたことを大切に、これからは活かしていきたいと思っております。社会に出て行っても、我々のことや楽しかった大学生活を忘れないで下さい。そして、大学生活で身につけた知識と技術を活かし、様々な困難を乗り越えて下さい。自分の力を信じて挑戦する気持ちを忘れずに、それぞれの夢に向かい躍進してくれることを心から願っています。くれぐれもお体には十分気を付けて頑張ってください。



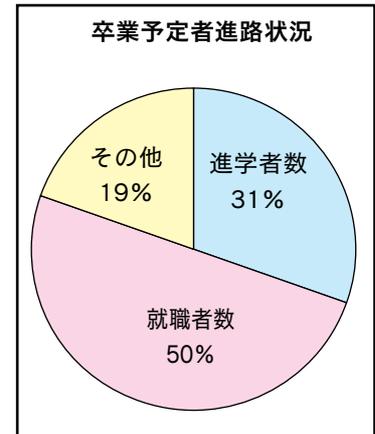
就職関係

平成16年度進路状況等

進路状況 (平成17年2月21日現在)

工学部

区分 学科	卒業 予定者数	進学者数	就職者数	その他	就職先内訳	
					道内	道外
機械システム工学科	99 (6)①	25 (0)	48 (4)	26 (2)①	11 (1)	37 (3)
電気電子工学科	65 (0)	16 (0)	37 (0)	12 (0)	11 (0)	26 (0)
情報システム工学科	48 (3)①	15 (0)①	25 (3)	8 (0)	6 (2)	19 (1)
化学システム工学科	48 (9)	18 (4)	16 (4)	14 (1)	6 (0)	10 (4)
機能材料工学科	54 (5)	19 (2)	29 (2)	6 (1)	6 (0)	23 (2)
土木開発工学科	61 (4)	23 (0)	32 (4)	6 (0)	19 (2)	13 (2)
計	375(27)②	116 (6)①	187 (17)	72 (3)①	59 (5)	128 (12)

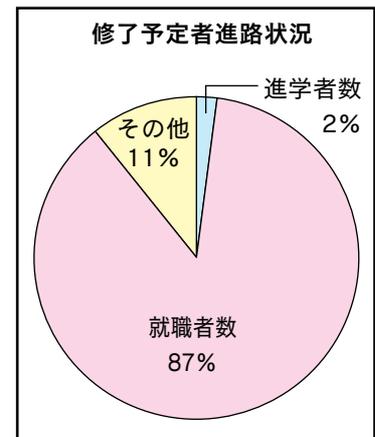


()は女子で内数、○は外国人留学生で内数

※その他 専門学校・研究生等への進学、留学、留学生の帰国、進路未定(公務員希望、進学希望を含む。)等

工学研究科(博士前期課程)

区分 専攻	修了 予定者数	進学者数	就職者数	その他	就職先内訳	
					道内	道外
機械システム工学専攻	26 (0)①	0 (0)	24 (0)	2 (0)①	5 (0)	19 (0)
電気電子工学専攻	13 (0)①	1 (0)①	12 (0)	0 (0)	4 (0)	8 (0)
情報システム工学専攻	14 (1)①	0 (0)	12 (0)	2 (1)①	4 (0)	8 (0)
化学システム工学専攻	22 (1)	0 (0)	20 (1)	2 (0)	6 (0)	14 (1)
機能材料工学専攻	23 (2)	0 (0)	19 (0)	4 (2)	2 (0)	17 (0)
土木開発工学専攻	33 (2)	1 (1)	27 (1)	5 (0)	13 (0)	14 (1)
計	131 (6)③	2 (1)①	114 (2)	15 (3)②	34 (0)	80 (2)



()は女子で内数、○は外国人留学生で内数

※その他 専門学校・研究生等への進学、留学、留学生の帰国、進路未定(公務員希望、進学希望を含む。)等

平成17年度就職ガイダンス (平成16年12月17日)

対象学生：平成17年度卒業（修了）予定の学部学生及び
大学院生のうち、就職を希望する学生

実施内容：①企業及び(株)リクルート北海道支社による講演
②先輩学生による就職活動体験談

参加者数：303人



産業別就職状況

工学部

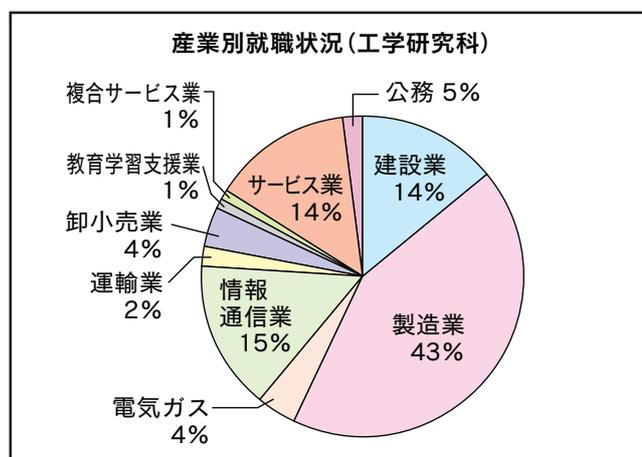
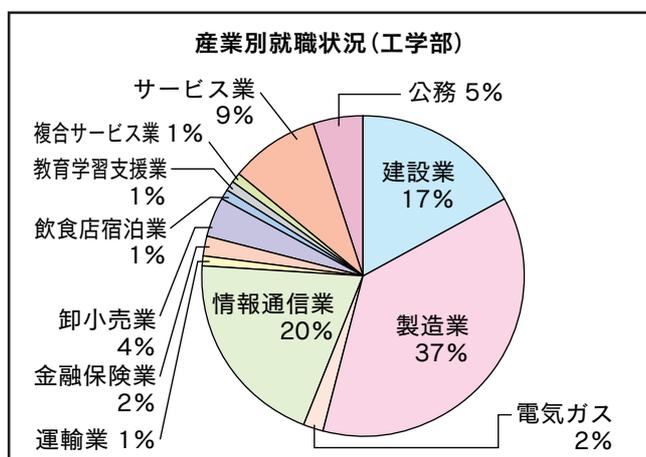
区分 学 科	建設業	製造業	電気ガス	通信業報	運輸業	卸小売業	金融 保険業融	宿飲泊 飲食店	学教 習支援業育	複サ 合サービス業	サ サービス業	公 務	計
機械システム工学科	4 (1)	33 (3)		2		2					4	3	48 (4)
電気電子工学科	7	13	2	13	1							1	37
情報システム工学科				18 (2)		2	2 (1)				2	1	25 (3)
化学システム工学科	2	5 (3)	2			2			1		1 (1)	3	16 (4)
機能材料工学科		13 (1)		4 (1)		3	2		1	1	4	1	29 (2)
土木開発工学科	18 (1)	5 (1)				1		1 (1)			5 (1)	2	32 (4)
計	31 (2)	69 (8)	4	37 (3)	1	10	4 (1)	1 (1)	2	1	16 (2)	11	187 (17)

()は女子で内数

工学研究科(博士前期課程)

区分 学 科	建設業	製造業	電気ガス	通信業報	運輸業	卸小売業	学教 習支援業育	複サ 合サービス業	サ サービス業	公 務	計
機械システム工学科	2	19		1		1			1		24
電気電子工学科	1	5	1	4		1					12
情報システム工学科		2		9			1				12
化学システム工学科	1	9 (1)	3		1	2			3	1	20 (1)
機能材料工学科	1	12		3				1	2		19
土木開発工学科	11	2			2				10 (1)	2	27 (1)
計	16	49 (1)	4	17	3	4	1	1	16 (1)	3	114 (2)

()は女子で内数



課外活動報告



ユニバーシアドにて8位入賞！

光情報処理研究室 大橋 洋平

2年に1回開催されるユニバーシアドという国際大会。簡単に言うと大学生だけが出場できるオリンピックです。今回、僕は第22回ユニバーシアド冬季競技大会の日本代表選手として選ばれてオーストリアに行ってきました。種目はスキー競技のうちの一つ、スノーボードです。スノーボードの選手は男子4名、女子2名いて僕以外は海外へトレーニングしに行ったり国際大会の経験もある選手でした。海外へ行くチャンスのない僕にとってはこれが最初で最後となるかもしれない国際大会です。出場するには全日本での成績やポイントランキングなどが重要となってきます。昨年、僕は全日本で6位に入ることができて選ばれることができました。

大会は1月13日と15日にゼーフェルトのスキー場です。日本出発は10日で着いたらすぐに大会だったのでスケジュールはハード。日本との時差は8時間で時差ボケもあるだろうし、環境も違うのでいろいろと不安でした。でも着いてみると実際には時差ボケは感じませんでした。

た。とにかく移動が長いので疲れで寝つきがよかったせいだと思います。大会前日の12日にはインスブルックのドームで開会式があり、入場は国ごとにまとまって高校野球の入場行進のような感じで歩きます。中央には一般の見に来た人達がいる、その周りをグルーっと一周しました。見に来ているのは子供が多く、選手に触れようとする子や写真を撮る子、「ジャパン！」と叫ぶ子がいる自分がヒーローになった感じになりました。それが終わると前もって配られたバッジを他の国の人と交換したり、一緒に写真を撮ったり交流もありました。その他に盛大な花火や地元の人達による創作ダンスなども見れて、とても盛り上がる楽しい開会式でした。

13日はパラレル大回転という種目で2人同時に並行して滑る感じですが、予選タイム上位16人が決勝へ進めるわけですが、出場選手は54名、日本人は全員予選落ち…オーストリアは雪が降らずとても寒い場所なので人口降雪機で雪を降らせます。日本とは違い雪は硬いので筋力が必要となります。外人は体もでかく見たとこ





ろ180cmは当たり前！僕らとは大人と子供のような違いで正直勝てるのかと…僕は雪質に悩まされ力が出し切れず順位は25位でした。選手のレベルは国内トップ選手よりはちょっと高いぐらいで、上手いけば一桁は狙えると思いました。今後の課題としてもっと上位を狙うには、ボードの状態をよくすること、筋力をアップすること、硬い雪でのトレーニングをすることなどが重要となってくるでしょう。

15日はスノーボードクロスという種目で4人が同時に障害物のあるコースを滑る、言い換えればモトクロスのスノーボード版です。次のオリンピックからの正式種目にもなっています。出場選手は51名で予選は一人ずつ滑り、タイムの上位32名が決勝進出となります。この競技は予選通過すら難しいと言われている中で、僕は4位通過でした。他の日本人選手は予選落ち。決勝で順調に勝ち上がってセミファイナル(ベスト8)まで勝ち進み結果は8位入賞でした。予選の順位から考えてもメダルも十分狙えたんじゃないかと思いました。この競技は技術はもちろん、戦略や運も関係してくるので誰が勝つか分からないといったところが魅力です。上位を狙うには大会経験を積み重ねることが重要となってくるでしょう。今回の結果から3月のワ

ールドカップに出場できる可能性があります。もし上位に入れば、来年のオリンピックに出ることにもなるので、これを機に世界を狙ってみたいと思います。

今回のユニバーシアード出場というのは、今後の活動に大きく影響するものとなりました。そして何よりも自信がつかしました！



私の学生時代⑤⑧

共通講座助教授 柳 等

私は日本体育大学で学生時代を過ごしました。学部の4年間はほとんど水球競技に明け暮れていました。水球競技は水中で行われる唯一の球技で、水の中でハンドボールをするようなものとイメージしてもらえばよいと思います。相手選手に沈められても、しっかりとボールをキープし、投げなくてはならないわけで、身体的にも非常にハードなスポーツです。そして、日体大の水球チームは練習ばかりでなく、日常生活の規律や先輩・後輩の上下関係でも厳しかったので、4年間よく続けられたものだといながら感心しています。ここでは、水球にどっぷりと漬かっていた学生時代の話を紹介したいと思います。

「水球漬け」生活の一日は、午前5時30分の起床から始まります。日体大水球合宿所というところで生活していて、下級生のときには食事当番というのがありました。食当には、朝5時前に起きて、ご飯を炊き、味噌汁を作り、チームメートを朝練習に遅れないように起こしてまわるとい役目があります。食当の朝は、寝坊してチームメートに迷惑をかけるようになりかなり緊張してよく眠れないこともあったことを覚えています。

練習は毎日朝2時間(6:00-8:00am)、夜3時間半(5:30-9:00pm)、していました。朝練習では泳力強化のための泳ぎ込みを中心に行います。季節によってメニューが異なるのですが、バスケットボール、ウェイトトレーニング、相撲の稽古も行いました。相撲の稽古ではまわしを付けて、相撲部の学生を相手にぶつかり稽古をしました。水球はしばしば「水中の格闘技」と称されることもありますが、格闘技の要素として相撲の稽古を取り入れ、精神的にも身体的にも相手に負けないタフさを培っていたわけです。夜練習では、

ときとして夜中の1時まで行ったこともありましたが。練習の出来が悪いと先生が納得せず、「ラスト一本」を繰り返した挙句、練習終了が真夜中となってしまったわけです。おなかが空いて練習中動けなくなったこともありましたが。スポーツ科学の観点からみればこのような練習はあまり合理的な練習とはいえませんが、先生が我々に練習を延々と続けさせたのは、何事にもあきらめない「粘り強さ」を鍛えたかったからだだと思います。

「水球漬け」の学生時代はとても偏った生活でしたが、他の人たちとは一味違う経験をする事ができたと思います。それによって、一つのことをやり抜くことや仲間と協調してやっていく大切さを学ぶことができたと感じています。

学生のみなさんには学生時代にしかできないようなことに挑戦し、最後までやり遂げてほしいと思っています。そうした経験の積み重ねが自信になり、将来役に立つことと思います。



土木開発工学科 交通工学研究室

近年、道路に対する社会的関心度の広がりとともに、そのニーズも量的なものから質的なものへ、設計基準も仕様から性能を重視する方向になってきています。また、少子・高齢化の時代を迎え、これまで創ってきた社会基盤を活用しながらどのように機能アップしていくか、リニューアルしていくかが求められる時代が到来しています。このような時代の要請に応えるために、当研究室では、道路交通を人-車-道路（交通）システムとして捉え、道路ユーザの視点から道路のあり方について見つめるとともに、積雪寒冷地という地域特性に配慮した研究を行っております。

(1) シミュレータを利用した路面評価

路面は道路ユーザが直に接する場であり、道路の快適性、安全性、円滑性ならびに環境保全を実現するために重要な役割を果たしています。道路管理の視点では、路面はひびわれ、わだち掘れ、平坦性といった損傷に基づき評価が行われていますが、本来、道路サービスは受益者である道路ユーザに対して供給されるものであるとの考え方から、ドライビングシミュレータを利用した乗員の快適性、安全性の視点から路面評価を行っております。



ドライビングシミュレータの概観

(2) プローブ車による冬期路面予測

積雪寒冷地における交通マネジメントには、時間変動する路面状況を車の走行挙動とリンクさせ、効率的かつ高精度で予測する必要があります。本研究の一環として、摩擦係数に基づく冬期路面管理の実現を目指して、GPSを装着したプローブ車により得られた加減速データ等から、冬期路面すべり摩擦係数の空間的時期的変動状況をリアルタイムに推定する手法について、研究を行なっております。

(3) 車椅子走行時における舗装材の評価

高齢者や身体障害者を含めたすべての歩行者が通行し易い環境の創出には、舗装路面の性状を考慮することが重要です。現在利用されている様々な舗装材には凹凸に加えて、目地による段差やすべり易さなど走行時に不快を感じる要因も多々挙げられます。本研究では、舗装材の相違が車椅子走行時の乗り心地や安全性に及ぼす影響を室内走行試験路ならびに実路において測定された車椅子への振動加速度などに基づき評価を行っております。



車椅子走行試験状況

リーダーシップトレーニングセミナー開催

(学生支援課)

北見工業大学では12月4日・5日、1泊2日の日程で「リーダーシップトレーニングセミナー」を開催しました。

本セミナーは、サークルの次期リーダー等を対象に、リーダーの育成及びサークル相互の親睦と理解を深めることを目的として、屈斜路研修所において毎年実施されています。

今年は、体育系24名、文化系9名、サークル連合役員5名のほか、高橋副学長をはじめ、

サークル顧問教員等関係職員6名が出席しリーダーとしての心構え、サークルの問題点等活発な討議が行われました。

当日は、外部講師による「大学クラブにおけるリーダーシップ」と題した講演のほかに、地元自動車学校による「冬道の安全運転」についての講話などを実施しました。

また、最終日には修了証書を授与しリーダーとしての一層の自覚を促しました。



「セーフティラリー北海道2004」の結果について

(学生支援課)

先頃、ドライバーの安全運転の励行と交通安全意識の高揚を図ることを目的に、「セーフティラリー北海道2004」への参加募集を行ったところ学生及び教職員あわせて12チーム46人の参加があり、7月1日から10月31日までの123日間、無事故・無違反での完走を目指しました。

その結果、学生及び教職員あわせて8チームが完走し123日間の無事故・無違反を達成しました。また、学生後援会より完走した学生チー

ムには副賞が渡されました。完走チームは下記のとおりです。

チーム名	チーム名
サバナン	キューブ
弓道部	たんも
チャワンプラス2	北見工大吹奏楽部
北見工大バレーボール部	チームGAKU

学事日程

2005年

3月31日(木)	17年度編入生ガイダンス
4月1日(金)	前期授業開始(2年次以上)
4月6日(水)	入学式(編入生を含む)
4月7日(木)	新入生ガイダンス
4月8日(金)	前期授業開始(1年次)
5月2日(月)	休講 開学記念日振替
5月6日(金)	臨時休講
6月24日(金)	休講 大学祭準備(予定)
7月26日(火)	金曜日授業振替日
7月27日(水) ~ 8月5日(金)	前期定期試験
8月6日(土) ~ 9月26日(月)	夏季休業日
9月16日(金)	学位記授与式
9月27日(火) ~ 9月30日(金)	集中講義期間・補講等調整期間
10月3日(月)	後期授業開始
10月3日(月)	秋季入学式
12月2日(金)	休講 推薦入学試験(予定)
12月16日(金)	就職ガイダンス
12月17日(土) ~ 1月9日(月)	冬季休業日
12月17日(土) ~ 12月22日(木)	4年次再試験(卒業予定者)

2006年

1月10日(火) ~ 1月13日(金)	集中講義期間
1月20日(金)	休講 大学入試センター試験準備
1月21日(土) ~ 1月22日(日)	大学入試センター試験
2月14日(火)	金曜日授業振替日
2月20日(月) ~ 3月1日(水)	後期定期試験(卒業研究審査を含む)
3月2日(木) ~ 3月31日(金)	学年末休業日
3月12日(日)	後期日程入学試験
3月24日(金)	学位記授与式
3月31日(金)	18年度編入生ガイダンス



平成17年3月発行

北見工業大学「学園だより」編集委員

青 山 政 和(化学システム工学科)

伊 藤 英 信(機能材料工学科)

佐 渡 公 明(土木開発工学科)

下記URLにて「学園だより」のバックナンバー(Vol.89~)がご覧になれます。
http://www.kitami-it.ac.jp/students_info/life/dayori.html